

女の人たちは戦の役に立たないから、敵兵が城下に侵入してきたら自害しよう
と、覚悟を決めていたのです。幼い妹
までが自決の覚悟を決めてその時を待って
いたとは、のちになって知ったことでした。

このとき十歳であった五郎少年こそ、
のちの陸軍大将柴五郎なのです。

柴五郎が会津若松城下に生まれたのは、
今から百二十年ほど前の安政六年（一八
五九年）です。二百八十石取りの上級武
士、柴佐多藏の五男でした。柴家は、祖

